

第二次西宮市地球温暖化対策実行計画平成 20 年度実績報告書

はじめに

第一次地球温暖化対策実行計画の計画期間満了に伴い、平成 20 年度より第二次西宮市地球温暖化対策実行計画を推進しています。計画期間を平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間とし、市の事務・事業（指定管理者制度の対象施設における活動を含む）から排出される温室効果ガスを平成 18 年度比で 3%削減することを目標としています。

目標設定対象排出量

平成 18 年度と平成 20 年度の目標設定対象排出量は、下記に示す通りです。

温室効果ガス排出量内訳

(単位：kg-CO₂)

排出対象	平成 18 年度	平成 20 年度	増減率 (%)
電気	36,827,118	37,468,866	1.74
都市ガス	6,595,812	6,496,391	1.51
ガス機関 ()	13,937	20,440	46.7
A 重油	795,534	806,668	1.40
L P G	108,297	104,213	3.77
灯油	348,149	322,398	7.40
ガソリン	609,179	588,314	3.43
軽油	501,462	420,151	16.2
C N G	162,978	187,332	14.9
自動車の使用に伴う排出 ()	27,231	26,848	1.41
目標設定対象排出量	45,989,697	46,441,620	0.98

その他の温室効果ガスとして排出されるものについても二酸化炭素量に換算して算出しています。

電気

電算機棟で使用量の増加が見られ、また、本庁舎等一部の施設について特定規模電気事業者 (PPS) からの電力供給に移行したことが増加要因となっています。(PPS による電力供給は、コスト抑制が可能な反面、温室効果ガス排出係数が高いことが多い。)

ガス機関

市立高校等にガス使用の空調設備を導入したこと等により増加しています。

CNG

ガソリン車・軽油車から天然ガス車へ置き換えたことによる増加です。天然ガス車使用が増加したことによりガソリン、軽油の使用量は減少しています。

重油

枝川浄化センター、ポンプ場等での減少が顕著なものの、食肉センターでの増加量が大きく、全体として増加しています。

その他 6 項目について一定の削減効果が見られました。今後、目標達成に向けて環境配慮設備・機器の導入を継続し、電力の環境配慮調達についても検討を進めて参ります。

総排出量

目標設定対象とする排出量に、一般廃棄物処理、下水処理及び麻酔（笑気ガス）使用に伴う排出量を合せた「総排出量」を算出しています。平成 18 年度と平成 20 年度の総排出量は下記に示す通りです。

温室効果ガス排出量内訳

(単位：kg-CO₂)

燃料	平成 18 年度	平成 20 年度	増減率 (%)
目標設定排出量	45,989,696	46,441,620	0.98
一般廃棄物の 焼却に伴う排出	62,955,601	52,537,497	16.55
下水処理に 伴う排出	4,032,505	4,126,431	2.33
麻酔(笑気ガス)使用に 伴う排出	37,200	18,600	50.00
総排出量	113,015,002	103,124,148	8.75

減少の要因として、一般廃棄物中に含まれるプラスチック類の含有率が、基準年度と比べ大きく低下したことが挙げられます。

本計画の詳細につきましては、第二次西宮市地球温暖化対策実行計画の計画書をご覧ください。HPアドレス：<http://www.nishi.or.jp/contents/00008432000300025.html>